

# 社団法人和歌山県私立幼稚園協会

## 1 研究テーマ及び研究の観点

預かり保育の在り方

## 2 指定地域の概要

| 地域の範囲 | 人口<br>千人 | 幼稚園              |                     | 小学校             |                                 | 保育所              |                      |
|-------|----------|------------------|---------------------|-----------------|---------------------------------|------------------|----------------------|
|       |          | 幼稚園数<br>園        | 幼児数<br>人            | 学校数<br>校        | 児童数<br>人                        | 保育所数<br>園        | 幼児数<br>人             |
| 和歌山市  | 370      | (公) 13<br>(私) 22 | (公) 864<br>(私) 3869 | (国) 1<br>(私) 52 | (国) 677<br>(公) 20039<br>(私) 484 | (公) 26<br>(私) 38 | (公) 2185<br>(私) 4730 |
| 有田市   | 33       | (私) 2            | (私) 188             | (公) 7           | (公) 1912                        | (公) 8            | (公) 1000             |
| 岩出市   | 52       | (私) 2            | (私) 716             | (公) 6           | (公) 3841                        | (公) 6<br>(私) 2   | (公) 1170<br>(私) 270  |

## 3 研究協力機関

- ・ 学校法人鈴木学園 たちばな幼稚園
- ・ 学校法人 野崎幼稚園
- ・ 学校法人ぶっとく学園 ぶっとく幼稚園
- ・ 学校法人和歌山中央学園 和歌山中央幼稚園

## 4 研究の内容及び方法

担当した4園で独自に預かり保育についてテーマを決め、実践を通じてテーマについて考えると共に、中間報告会・研修会・最終報告会を通じて、第3者の意見を参考にしながら、預かり保育に関する認識を深め、一定の結論を導き出した。

\*テーマ

たちばな幼稚園……異年齢が緩やかにかかわる預かり保育

野崎幼稚園……預かり保育の必要性和子どものためにあるべき生活の保障との接点について

ぶっとく幼稚園……家庭的な預かり保育の在り方

和歌山中央幼稚園……異年齢が緩やかにかかわる預かり保育

<たちばな幼稚園>

### (1) 預かり保育の概要

たちばな幼稚園は和歌山市の東部郊外、田園地域にある。核家族化が進み、夫婦共働きの家庭が多数をしめ、預かり保育のニーズは高まっている。月曜日から金曜日まで、毎日預かり保育を実施している。2:30~5:20

まで預かる。平均25名の園児が利用し、場所は玄関ホール、および遊戯室を利用する。仕事や急な用事、小学校の参観など以外は原則として預からない。保育の内容は、クラスでの教育課程の活動に対し、休息や次のステップへの気の溜めこみの場として、また活動の再構成する場として設定している。従って家庭的な雰囲気のもと、自由に伸び伸びと遊んだり休んだり出来るよう、遊びのコーナーを用意し、担当者2名は安全性を確保するようにしている。異年齢の子ども達の関係は斜めの関係と言える。気楽に教えてもらったり、喧嘩が起こっても兄弟喧嘩ほどには強烈にならない。また優しさや思いやりなど微妙な感情だけでなく、ルールや限度や節度ということを遊びを通じて身に付けていくことができる。今回はごく自然に和やかに遊べる「あそび」を探すことにより解決できないか研究を進めることとする。

「体験1 駄菓子、駄玩具を体験してみよう」

「体験2 昔遊びを教えてもらおう」

「体験3 昭和の街の雰囲気を体験しよう」

「体験4 正月遊びを体験しよう」

### (2) 研究成果及び今後の課題

① 昔遊びはある程度の遊ぶ為の技術を習得しないと面白くないが、そのレベルまで達すると、かけ引きや応用などの奥深い面白さが加わってくる。挫折してしまわないよう挑戦カードなど工夫することが必要である。お手玉のように技術的な差がはっきりしている遊びは、すぐには模倣出来ないかわり、先輩に対する憧れや羨望等の感情は生まれやすいのではないかと思う。

② 預かり保育は自由に伸び伸びと遊べるような環境で、再構成の場として行うのが好ましいように思う。コーナー遊びも季節感などを考慮するなど、工夫が必要である。預かり保育はただ安全に預かっておけば良いというのではなく、一斉保育との関連や担任や保護者等との関連など引き続き研究してゆくことが大切である。

<野崎幼稚園>

### (1) 預かり保育の概要

野崎幼稚園は、和歌山市の西部郊外、河西地区にあり、西山浄土宗南紀本山総持寺の静寂な境内にある。創立後58年経過、「からだ・あたま・こころの調和をめざす立腰教育」に取り組む。預かり保育は14:30~17:30(水

は13:30～)で実施しており、所定用紙に記入して申し込む。平成19年度の預かり保育の活用率は、日平均9.58人で在籍園児の3.4%、比較的少ない。保護者は、子どもが幼い間はできるだけ自分で養育しようと努力している。兄弟の参観日・家事都合・自身の体調が優れない時のみ子どもを預けている。

## (2) 研究成果及び今後の課題

① これまで預かり保育を特別意識することは少なく漫然と実施してきたが、読み聴かせを取り入れ、内容を計画的かつ継続的に検討したことが契機となって、園の保育や家庭の子育てにもいくつかの変化が見られる。園児・保護者・保育者の三者が、子どもの生活・生活リズムを充実させるうえで、園がやらなければならないこと、子どもにさせること、させるべきでないこと、保護者にしてもらわなければならないことなど、それぞれ明確になってきた。

② 今回預かり保育でも特に豊かな心を育てることに視点を定め、望ましい子どもの生活リズムの一齣に絵本の読み聴かせを園と家庭で定着させようとして取り組んだ。保護者のアンケートへの協力も得て、子育ての改善に資する資料を沢山得ることができた。

## <ぶっとく幼稚園>

### (1) 預かり保育の概要

ぶっとく幼稚園は和歌山県有田市の中央に位置し、山や川・海など自然環境に恵まれている。10年前から預かり保育を実施しており、利用期間は、月曜日から金曜日まで、時間は3:00～6:00までであり、夏休み、冬休み、春休みは実施していない。預かり保育専任の担任が一人、副担任が一人の計二人で担当している。申し込み方法は、月極、一日単位、当日の三つの方法がある。預かり保育で行う教育活動は、子どもたちが家庭に帰ったようにリラックスし、近所の友だちと遊んでいるような活動、いわゆる家庭的な保育にしたいと考えた。子どもたちは、自分の家に帰るように「ただいま」と言い、担任は母親のように、「おかえり」と迎えるようにする。お寺の境内にある運動場で遊んだり、お昼寝したい子は、畳の上に布団を敷いて寝るなど、リラックスした中で、その子その子に合った対応を心がける。預かり保育の担任が専任であることで子どもたちが、安心して預かり保育に参加でき、先生も子どもの性格を把握できると考えた。

### (2) 研究の成果及び今後の課題

① 家庭のように、部屋にはお母さんやおばあちゃんのような先生がいて、園児同士が兄弟姉妹となって疑似家族を体験する。そんな中で、いろいろななかかわりを持ちながら、人間関係をつくり成長している。

② お迎えに来たお母さんと立ち話しの中で、子育ての悩みや、愚痴を聞いたりすることがある。これも子育て支援のひとつになっていると考える。子どもから「行きたい」という声が出るような、環境づくりをしていくことが子どもにとっても、保護者に対する子育て支援の面でも大切だと考える。

## <和歌山中央幼稚園>

### (1) 預かり保育の概要

和歌山市のベッドタウンとして、住宅化が進み多くの住民は他所からの転居者であり、夫婦共稼ぎが多く、地域の絆は薄くなってきている。そうした状況下で、預かり保育に対するニーズは高い。本園の場合、開園以来、「延長保育」という名称で、正規の教育時間終了後の預かりを実施しており、それが現在の預かり保育に移行している。預かり保育の基本的姿勢は、心身の健全な発達を目的に、よく遊ぶことである。保育時間終了後、土日祝以外は午後5時まで園児を幼稚園で預かる。1日30～100名程度利用者があるので、担任や非常勤職員も含めて全園的に取り組んでいる。今回、「預かり保育のあり方について」という研究テーマに基づき、改めて本園の子どもたち(在園児はもちろん、卒園児・就園前の子どもも含めた)の預かり保育での様子を観察した。

### (2) 研究の成果及び今後の課題

① 単一年齢ではなく、異年齢の子どもの交わる中で、遊べる条件として二つの要素があることがわかった。一点は子ども自身が遊びの楽しさを知っていること。もう一点は、友達と遊び込めるためには、友達と遊ぶことの方がより楽しく遊べるということを知っていなくてはならないことであった。この二つの要素を満たした上での遊びの中で、人間が人間として生きていく力を育てていっているのだと確信することができた。

② 私たち大人は、幼児期の子どもたちを取り巻く一人一人として、育ちゆく子供のモデルとしてお互い助け合い、認め合える関係を築いてゆくことが大切だとわかった。「預かり保育」とはその時間帯を預かれば良いというものではなく、子どもの日々の育ちにより丁寧に寄り添ってゆかねばならないことがわかった。

③ 今以上に丁寧に、温かく子どもに寄り添うために何ができるかを検討する必要がある。子どもたちのモデルとなる大人として、保護者と保育者が認めあう関係を作るためにどうすればよいか課題である。